

# 高齢者福祉施設における 救急ガイドブック



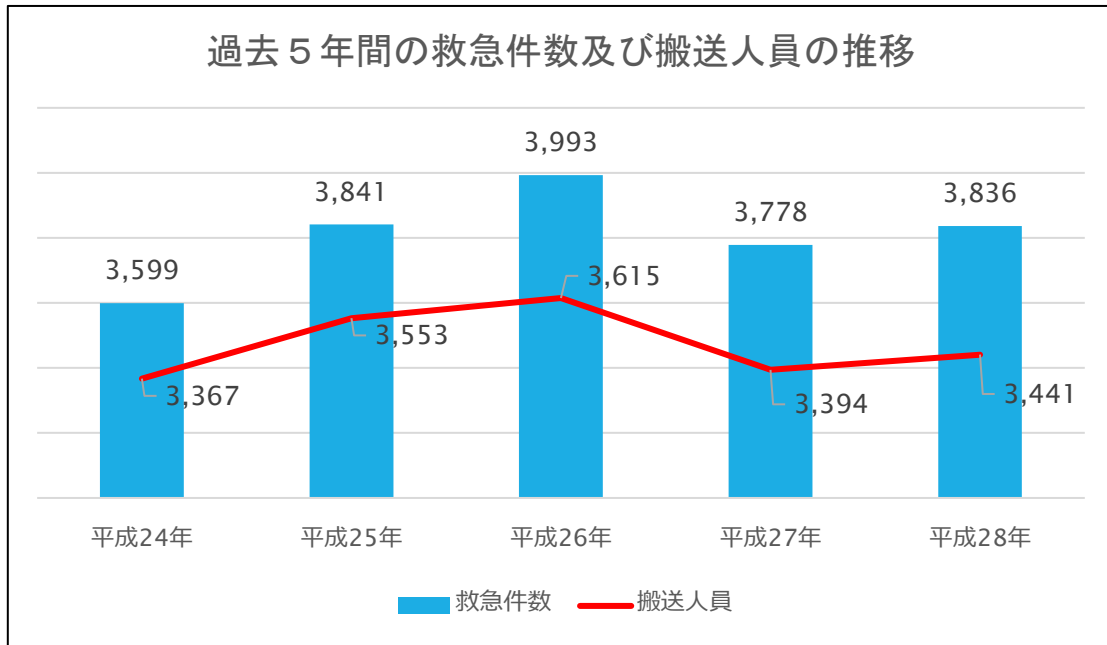
花巻市消防本部 警防課

## ～もくじ～

花巻市における救急概要	(2 P)
予防救急とは	(3 P)
施設内での予防救急	(4 P～6 P)
救急事案が発生したら	(7 P)
花巻市消防本部救急情報シート	(8, 9 P)
救急要請の要領	(10 P)
救急車適正利用のお願い	(11 P)

# 花巻市における救急概要

花巻市の救急件数等についてご紹介します。

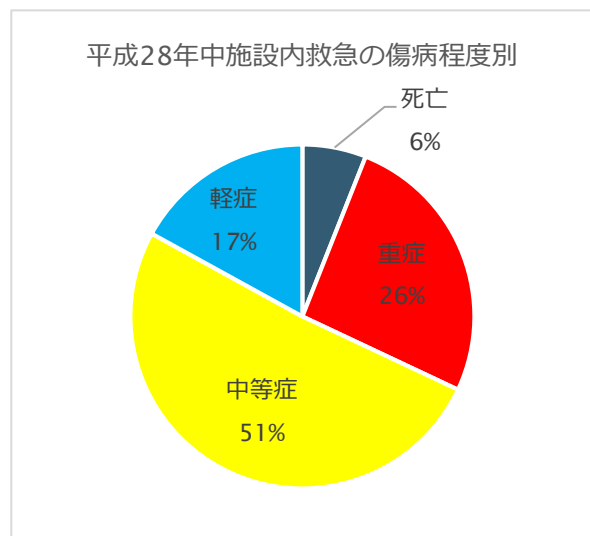
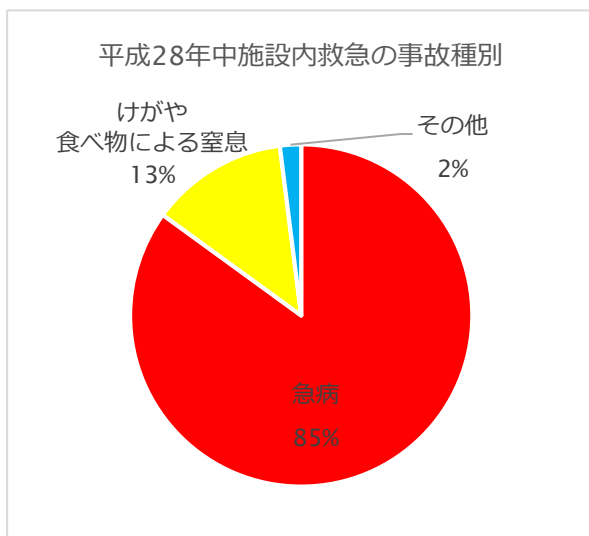


平成28年の救急出動件数は3,836件、搬送人員は3,441人となっています。

搬送人員3,441人のうち、高齢者福祉施設からの搬送された方が254人で、全体の7%となっています。

高齢者福祉施設の救急事案の特徴は、急病と不慮の事故によるけがや食べ物などによる窒息が98%を占めていることです。

また、高齢者の77%が中等症以上と診断されています。



## 予防救急とは

～予防救急とは～

予防救急とは、救急事故を未然に予防するため、事故事例を分析し、事故発生を予防するための対策を市民の皆様幅広く普及することです。

いわゆる“不慮の事故”の中には、注意することにより防げる事故が多くあります。

応急手当のガイドラインにおいても、「救命の連鎖」の最初は、

「心停止の予防」となっています。



社会の高齢化に伴い、救急出動においても高齢者（65歳以上）の搬送が増えています。

また、高齢者福祉施設からの救急要請も年間250件前後で推移しており、入所者の急病や、施設内での事故による受傷が原因によるものがほとんどです。

高齢者は、若年層と違い軽度な病気や怪我でも、重症化することがあります。

救急事案に至る原因には、「もう少し注意すれば」や「事前の対策を講じていれば」など、防ぎえたかもしれない事案が少なからずあります。

救急搬送が必要となる病気や怪我を、ほんの少しの注意や気配りで防げるように「予防救急」を実践していきましょう。

入所者が、安全・安心に暮らせるように、施設内でできる「予防救急」のポイントをまとめました。

このガイドブックを、ご活用いただければ幸いです。

# 施設内での予防救急

救急事例から、施設内で実践できる

「予防救急」のポイントを紹介します。

## 1 手洗い・うがいの励行

感染症の代表であるインフルエンザ、ノロウイルスなどは、施設内で発症すると二次感染が容易に拡大します。

感染が拡大しないように、職員の方だけではなく、利用者全員の手洗い・うがいを徹底してください。

また、感染経路（接触、飛沫、空気等）や、嘔吐物など正しい処理方法など、感染予防対策を知ることによって、施設内での二次感染を防ぐことができます。

感染に対しての、正しい知識を身につけてください。

感染症に関する情報

岩手感染症情報センター

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

## 2 施設内での転倒・転落防止

高齢者の方は、普段生活して慣れている場所でも、ちょっとした段差や電気コードにつまづき転倒し、骨折を伴い重症となる場合があります。

施設内での段差や滑りやすい場所などの危険個所に注意するとともに、整理・整頓を心がけ、廊下や部屋の明るさにも注意してください。

また、飲み物などがこぼれて、床が濡れてしまった場所でも滑って転倒する場合があります。床が濡れてしまった場合には、すぐに拭き取るなどの細やかな心配りをしてください。



### 3 食物による誤嚥・窒息の予防

高齢者の方は、嚥下運動（飲み込み運動）の低下により、飲み込みにくくなっていることや咳をしづらくなり、誤嚥や窒息を起こしやすくなっています。

大きな肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも窒息事故が起きています。

食べ物を小さく切って食べやすい大きさにするだけでなく、ゆっくりと食事ができる環境づくり、施設職員が食事の様子を見るなどの気配りを願います。

また、食事中にむせるなどの症状があった場合は、食後の容態変化に注意してください。

窒息のサイン

- ・苦しがる ・顔色が悪い ・声が出せない
- ・親指と人差し指でのどをつかむしぐさ

窒息事故が発生しやすい食べ物

- ・パン、餅、肉、こんにゃくゼリー、里芋など



### 4 熱中症に注意

熱中症は、室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温調節機能が働かなくなり、様々な障害を起こす症状のことです。

高齢者の特徴として、“のどの渇きを感じにくい”、“暑さを感じにくい”、“汗をかきにくい”など、体温を下げるための反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険性があります。

～熱中症予防のポイント～

- ① 室温28℃を超えないようにエアコンや扇風機を上手に使う。
- ② のどが渇く前に水分補給をする。
- ③ のどが渇かなくても、こまめに水分補給する。
- ④ 無理せず適度に休憩をする。
- ⑤ 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりをする。



熱中症に関する情報

消防庁 <http://www.fdma.go.jp/>

環境省 [http://www.env.go.jp/chemi/heat\\_stroke/munual.html](http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/munual.html)

## 5 かかりつけ病院、診療所との連絡体制

高齢者であることを認識し、体調に変化があり、症状が発症した場合には、早めにかかりつけ医に連絡し受診するようにしてください。

また、病状が悪化する前に受診するなど、早めの対応をお願いします。

## 6 施設内における事故の対応

いざというときに慌てないために、施設内での各職員の行動、夜間や休日など少ない人数で対応しなければならない時の行動を、検討しておいてください。

AEDなどの設置場所も、職員間で周知してください。



## 7 救急講習の実施

救急車が到着する前に応急手当をできるのは施設職員の皆さまです。

施設に応急手当普及員資格を有している職員がいる場合、応急手当普及員がリーダーシップをとって積極的に応急手当講習を実施しましょう。

花巻市消防本部では、修了証を発行する普通救命講習を実施しているほか、応急手当普及員講習も行っています。

また、施設職員の企画による救急講習を行うため、訓練人形及び訓練用AEDも貸し出しをしています。

いざという時のために、応急手当を身につけておきましょう。

花巻市消防本部救急講習情報

<http://www.city.hanamaki.iwate.jp/shimin/190/index.html>



## 救急事案が発生したら

### 1 施設内で急病、ケガが発生した場合の対応

- (1) 施設内の職員を集める。
- (2) 集まった職員に役割分担をする。
  - ① 119番通報
  - ② 傷病者の応急手当（心肺蘇生法等）
  - ③ 傷病者の家族へ連絡
  - ④ 到着した救急隊を、傷病者のところに案内する。
  - ⑤ 救急隊に状況説明をする。
  - ⑥ 救急隊に『救急情報シート』を提示し、必要な情報を伝達する。

### 2 施設職員の同乗

- (1) 医療機関では施設職員の救急車への同乗を求めてきます。同乗にご協力をお願いします。
- (2) 医療機関への申し送りが必要です。看護記録、介護記録等を持参してください。

### 3 家族への連絡

医療機関では、家族への連絡を求めてきます。できるだけ速やかに、家族へ連絡するようにお願いします。

### 4 特定行為（救命処置）拒否の意思表示

- (1) 傷病者や家族から救急隊の特定行為（救命処置）拒否の意思表示（書面等）がある場合は、あらかじめかかりつけ医師等に相談し、その内容を救急情報シートの特定行為（救命処置）拒否欄に記載してください。
- (2) 特定行為拒否の意思表示があった場合でも、救急隊は応急処置をしないで医療機関へ搬送することはできません。この場合、心肺蘇生法のみ実施し医療機関に搬送します。救急活動にご理解とご協力をお願いします。

## 救急情報シートの活用

花巻市消防本部では、高齢者福祉施設での救急事案を円滑に対応するために、救急情報シートを作成しました。

救急情報シートの作成にご協力をお願いします。

この救急情報シートに必要事項を記載してファイル等にまとめておき、救急隊が到着後、そのファイルを救急隊が閲覧することにより、救急隊が必要とする情報が把握でき、医療機関への収容時間短縮に有効となります。救急隊閲覧時は、施設関係者の立会いをお願いします。

この救急情報シートは救急活動のみに使用しますので、入所者の情報把握を行った後は、施設職員もしくは家族にお返しいたします。



<b>救急情報シート</b>		施設名：	
		電話番号：	
作成日	平成 年 月 日	作成者	本人・家族・施設職員（氏名）

1 入所者の基本情報

現住所			
ふりがな 氏名		性別	男・女
生年月日	M・T・S・H 年 月 日	年齢	歳
電話番号	自宅電話： — — 携帯電話： — —		

2 医療情報

現在治療中の病	気		
過去の病気歴		医療機関名	
現在服用中の薬	お薬手帳の有無： 有・無（お薬手帳がある場合は、持参してください。）		
現在の かかりつけ医	医療機関名		診療科目
	①		
	②		
	③		

3 普段の生活状況

介護区分		歩行	寝たきり・車いす・補助歩行・自力歩行
会話・意思疎通	可・否	食事	経口・介助経口・その他（ ）

4 緊急時連絡先

	氏名	続柄	住所	電話番号
第1連絡先				
第2連絡先				

5 普段の脈拍・血圧測定値など

脈拍	血圧測定値	その他必要事項
回/分（不整脈 有・無）	/ mgHg	

6 特定行為（救命処置）拒否について（家族、主治医等との取り決めについて記載してください。）

--

※この救急情報シートは、救急業務以外に使用しません。  
 ※施設関係者の立会いのもとに、救急隊が記載内容をご覧します。

<h1>救急情報シート</h1>		施設名：特別養護老人ホーム花巻〇〇荘 電話番号：0198-24-1234
作成日	平成29年10月1日	作成者 本人・家族・施設職員 (氏名 東和 三郎)

1 入所者の基本情報

現住所	花巻市材木町12番6号		
ふりがな氏名	はなまき たろう 花巻太郎	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 ・ 女
生年月日	M・T・S・H 10年 10月 10日	年齢	82歳
電話番号	自宅電話：0198-22-1234 携帯電話：090-1234-5678		

本人以外が作成した場合は、氏名をご記入ください。

救急隊と病院側が必要な情報です。収容医療機関を選定する際に重要となりますので記入願います。

2 医療情報

現在治療中の病	高血圧症 糖尿病		
過去の病気歴	脳出血	医療機関名	県立〇〇病院
現在服用中の薬	お薬手帳の有無： <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 (お薬手帳がある場合は、持参してください) 糖尿病薬、降圧剤		
現在のかかりつけ医	医療機関名		診療科目
	①	〇〇〇〇クリニック	内科・循環器
	②		
③			

3 普段の生活状況

介護区分	要支援1	歩行	寝たきり・車いす・補助歩行・ <input checked="" type="checkbox"/> 自力歩行
会話・意思疎通	<input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 否	食事	<input checked="" type="checkbox"/> 経口 ・ 介助

救急隊と病院側が必要な情報です。連絡のつきやすい関係者をご記入ください。

4 緊急時連絡先

	氏名	続柄	住
第1連絡先	花巻 次郎	長 男	花巻市大通り〇〇番 〇〇〇〇 0198-22-5678
第2連絡先			

5 普段の脈拍・血圧測定値など

脈拍	血圧測定値	その他必要事項
60回/分 (不整脈 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無)	160/90 mgHg	

6 特定行為(救命処置)拒否について(家族、主治医等との取り決めについて記載してください。)

主治医及び家族との話し合いにより、救急隊による救命処置は行わないこととしている。など・・・

救急隊が必要な情報です。特定行為拒否については、わかりやすい内容でご記入ください。

※この救急情報シートは、救急業務以外に使用しません。  
※施設関係者の立会いのもとに、救急隊が記載内容を閲覧します。

## ～救急要請の要領～

### 急病人、けが人発生

#### ステップ1

- 施設にいる職員を集める
- 集まった職員に任務分担
- 傷病者に応急手当を開始する

### 119番通報

#### ステップ2

- 施設名、住所、電話番号
- 受傷機転を簡潔に
- 傷病者の状況（意識の有無、呼吸の有無）
- 電話をかけている人の名前

### 救急隊の到着

#### ステップ3

- 救急隊の誘導  
(出入口が複数ある場合は進入口を明確に指示)
- 傷病者のそばまで案内する
- 救急情報シートがある場合、シートを提示**
- 傷病者の状況を伝える

### 救急車への同乗をお願いします

#### ステップ4

- 傷病者の状況がわかる方が  
救急車に同乗をお願いします
- 看護記録、介護記録等を持参してください
- 傷病者の家族に連絡する

※ 付き添いがない場合は、早急に家族へ連絡するとともに、傷病者の情報を詳しく救急隊に伝えてください。**(救急情報シートの提示)**

# 救急車適正利用のお願い

## 救急車を呼ぶ前に考えよう



花巻市消防本部は、7台の救急車で年間約3,900件の救急出動をしています。救急出動は年々増加しています。

**救急車の適正利用をお願いします。**

### 緊急性が認められない場合の事例

- 1 寝たきりである、職員の人手が足りない
- 2 定期通院をするため
- 3 入院予定日であったから病院に行きたい

救急車は  
地域の限られた救急資源



**救急車や救急医療は限りある資源です。**

- 緊急度を素早く判定し救急車を呼ぶ目安になるアプリ  
総務省消防庁「Q助」案内サイト

[https://fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9\\_6/kyukyu\\_app.html](https://fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/kyukyu_app.html)

- 施設で判断に困った場合は、通院先の医療機関に確認をお願いします。